



わだち

広報誌 第7号 (2005.2.27)

〒982-0844
宮城県仙台市太白区根岸町4番6号 コーポ根岸A-10
電話 022 (746) 8461 FAX 022 (746) 8462

宮城県剣道連盟

宮城県公立武道館協議会、10,000人 寒稽古



ごあいさつ



宮城県剣道連盟理事長
小澤 仁通

輝かしい平成十七年の幕開けとなりました。皆様には、健やかにて希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、度重なる台風の上陸や中越地震、スマトラ沖地震による津波災害など国内でも国外でも心を痛める出来事の多い一年であります。今年こそ明るいニュースの多い平和な一年でありますように念じる次第であります。

さて、日頃、本連盟の運営に対しまして深いご理解とご協力を頂いておりますことに衷心より感謝申しあげます。お陰様で平成十六年の諸事業が滞りなく所期の目的を達成できましたことは、誠にご同慶に堪えないと存ります。万般に亘りご協力を賜りました各位に対しても感謝を申し上げます。

昨年は、総務・事業・強化・普及・広報の五つの専門委員会に加えて新たに情報委員会を立ち上げました。

現在では、情報化の中であらゆる分野で情報提供が常識となつてきています。本連盟といたしましてもこうした認識にたつてホームページを開設し、試合結果や行事の案内は勿論のこと剣道に関する諸々の情報提供の充実を図つて参りたいと考えております。お陰様で昨年七月の開設以来既に九,〇〇〇件のご利用を頂いております。今後とも大いにご利用いただきます。このところ世の中の規範意識が薄れ年々確かなものが少なくなつてきております。健全育成においても剣道発展の一助になることを期待いたしております。

保は、地域ぐるみの協力を得てもなかなか解決しない大きな問題となつております。このような時代においてこそ剣道を通して明るい社会の形成に向けた努力が必要であると考えます。今年は、酉年であります。易經で酉(ゆう)を解釈すると「よどんだものを吹き払い、上のものと下のものを交流させる」と言う意があるそうであります。明るい社会に向けて良い一年になりますことをご祈念申し上げてごあいさついたします。

カナダでの剣道

木村 重男

カナダ トロント市在住 剣道教士七段

はじめに

カナダにも紅葉の季節が訪れ、観光客で「銀杏(きんこ)」レストランが賑わいを見せようとしていた九月中旬の早朝、次兄、民男からの電話があつた。内容は宮城県剣道連盟の広報誌「轍」への原稿依頼があるかもしれないのに、心の準備をしておくようにと言った。多分、小牛田農林時代の恩師である小澤仁邁先生(現宮城県剣道連盟理事長)の計らいであろうと察せられた。日本にはたびたび帰つてくるとはいえ三十年も離れている私が本家である日本の剣道のことについて書くのにためらいはあつたが、自身のカナダでの半生は剣道に支えられてきたと思つてゐる。お世話になつた恩師や先輩方への御礼を含めてカナダでの剣道について綴つてみたいと思う。

昭和二十四年(一九四九年)牡鹿町で一番小さな大谷川という部落の五人兄弟の四男坊として生まれる。

長男、富士男(小牛田農林高校卒・剣道部・現・牡鹿町長 剣道教士五段)が高校卒業後、家業の農業を繼ぐ傍ら自宅の前庭で剣道を教えたのが私の剣道の始まりである。小学校二、三年の頃と記憶する。百ワットの裸電球の下で石や砂利を掃き、夏は蚊に刺されながら、冬は雪で縮む手足をさすりながらの練習であつた。竹刀は裏の竹林から切つた青竹、三分の一を四つ割りにし、先をタコ糸で結んだだけのものであつた。数回切り返しするだけで壊れてしまう。ある者は竹の子で竹刀を作つたが、面に当たる前に折れていた。しかし、二組しかなかつた古道具

を初めて着けた時の気分はまさに侍であつた。それ以上に肌に食い込んでくる竹胴の痛さを今まで鮮明に覚えている。

小学校時代

小牛田農林高校の農業土木科に入学。寄宿舎生活の始まりである。掃除をした後が汚い、言葉使い、態度が悪いと怒られ、食べ盛り、育ち盛りの高校生にとつて唯一の楽しみは、食べ物の夢を見ることと、朝の通学時間に寄宿舎の前を通る女子高生を見送ることであつた。舍監であられた小澤仁邁先生は朝夕の点呼のもち方は明瞭且つ厳正なもので、我々悪たらず者の集団にとつて何時も怖い存在であつた。

朝飯をかけ込むと同時に教科書を脇に抱えて道場に走る。道場の半分は窓も戸も無く、冬は道場に積もつた雪を掃くことから始める。雑巾掛け、そして凹凸激しい床の上で練習が始まる。剣道部長、高橋要先生、小澤仁邁先生、森俊彦先生、熊谷芳博先生、その他にも先生や先輩方が数名おり、業も上位で卒業することができ、

れた。一時間の朝稽古はほとんどがかかり稽古で終わる。昼休みは気合いの練習で一年生が道場から大声で発した気合を遠く離れた体育館で二年生が聞きとる。「木村、お前の気合は全然聞こえなかつた。」とよく宮澤先生から怒られた。

二年から三年に進級する際、赤点が五科目もあり三年に進級しかねていた。高橋要先生、小澤仁邁先生が校長、教頭、担任の先生と父親の前で「木村は現在の成績は悪いが近い将来必ず伸びる生徒なので我々に任せてほしい。」と言つてくださり進級することことができた。これは私の人生の中で大きな転機になつた。これだけ先生方から期待され信用して頂いたのだから何かしなければと自分に誓つた。それからの私は、朝五時に起きて校庭を走つたり、素振りをしたりと自主トレを始め、勉強にも力を入れた。

三年になつてから試合でも勝てるようになり、東北大会では秋田高校(インターハイ優勝校)を敗つて優勝し、国体でも準々決勝で再度秋田高校と対戦し、三対二で惜しくも敗れはしたものの、良い成績を収めることができた。学

自分でも頑張れば何とかできる
こと、先生方の期待に添えたこと
がその後の私の人生の中で、困難
にぶつかってもそれを乗り越える
大きな原動力になった。

—大学時代—

一九六七年、高橋要先生と小澤
仁邇先生の推薦で拓殖大学に体
育特別奨学生として入学するこ
とができた。



▲ 1976年 造園業に使うトラクターに乗って(長男・重成11ヶ月)

二年生の時、関東学生新人戦の
団体戦で優勝し、その年の長崎国
体にも宮城の先鋒として水野先生、
四年生のときは学生運動真っ
盛りの時代。剣道部主将、そして
体育連合会々長として、「これから
の世の中は我々が変えてみせる。」
などと大きな口をたたいて安保
反対の学生達と激論を戦わせた
ものだつた。

大学卒業を控え、教師、警察官
になることを薦められていたが「自
分から剣道を取つたら何も無い
ではないか。」という疑問に日々
自問していた。このまま剣道だけ
を続けていいのだろうか?ある時、
次兄、民男へその疑問をぶつけて
みた。「お前は今まで剣道を続け
てきて、お前から剣道を取つたら
何も残らないような剣道しかし

山先生の指導で毎朝警視庁の武
道館で朝稽古を頂き、また講談社、
野間道場への出稽古で高名な先
生方からたくさん稽古を頂いた。

四年生のときは学生運動真っ
盛りの時代。剣道部主将、そして
体育連合会々長として、「これから
の世の中は我々が変えてみせる。」
などと大きな口をたたいて安保
反対の学生達と激論を戦わせた
ものだつた。

大学卒業を控え、教師、警察官
になることを薦められていたが「自
分から剣道を取つたら何も無い
ではないか。」という疑問に日々
自問していた。このまま剣道だけ
を続けていいのだろうか?ある時、
次兄、民男へその疑問をぶつけて
みた。「お前は今まで剣道を続け
てきて、お前から剣道を取つたら
何も残らないような剣道しかし

てこなかつたのか?」と頭からし
かられた。よくよく悩んだ末、剣
道以外の自分も作つてみたいと
思い、それなら日本にいないほう
が良いとの結論に達した。拓殖大
学は昔から海外雄飛の気風があり、
同輩、先輩方の後押しもあって力
ナダにいらつしやる中村先生に
お世話になることになつた。

中村先生の所にお世話になる
ことを決めたものの、両親を始め
兄弟、親戚の者にどう説得すれば
納得してもらえるか自信がなかつ
た。観光旅行でもなく留学でもな
く移民として行くのである。兄弟
達(長兄を除いて)は薄々感じて
いたらしく、卒業後のは早めに
親に話した方が良いとアドバイ
スをもらつてはいたが、なかなか
言い出せないでいた。



▲ 1975年 造園業トラックの前で
(左側、剣道の生徒ロバート 右側、手伝い人のジョージ)

渡加間近に剣道部の恩師、小山
朝英先生に挨拶に行つた折(木村、
カナダには何で行くんか。)と問わ
れ「はい先生、飛行機の切符を予
約してあります。」と答えた。しか
し先生に「国境を越えるときは樂

親に話した方が良いとアドバイ
スをもらつてはいたが、なかなか
言い出せないでいた。

卒業する年の正月、実家に帰つ
た折に思い切つて両親にカナダ
へ移民することを話した。父親は
意外とあつさり「行きたい所で頑
張るのが一番だ。」と認めてくれ
たが、母親は、全然知らない異國
に自分の息子を送るのに、かなり
の抵抗があつたようだつた。その
後長兄、富士男がその話を知り、「何
故警察官や教員になる話を断つ
てまでカナダに行くのか、目的は
何なのか。」と反対され説教された。
「とにかくカナダに行つてみたい。
行つて何かやつてみたい。カナダ
に行くことが目的である。親兄弟
には絶対迷惑をかけない。」漠然
とした答えしか出てこなかつた。
「お前はとつづくの昔から皆に迷惑
を掛けているではないか。」と言
われ返す言葉が無かつたが、私の
決心は変わらなかつた。

しちゃいいかん。」と言われた言葉が突き刺さり、すぐ飛行機をキャンセルして貨物船を予約した。

渡 加

一九七三年一月十二日、横浜の本牧埠頭から拓大剣道部の後輩たちに、「先輩送別歌」を歌つてもらい、知人、友人、そして宮城から出てきた両親に見送られカナダに渡った。あまり悲しいとか寂しいとかは思わなかつた。むしろこれから始まるうとしている新しい異国での生活を想像して一人興奮していた。船が出てから二日ぐらゐは甲板に出て素振りをしてやろうと歩き回っていた。三日目あたりからである。重症の船酔いにかかり、食べては吐き、風呂に入つては上げる始末で、食べ物を見るだけで憂鬱な気分になつた。その上、知つている人は皆無の船中で孤独や不安と戦いながら、言葉や生活様式の違いに戸惑い、毎日ドキドキ、おろおろの珍道中となつた。

バンクーバーのロジャース先

銀メダル保持者)宅に着いた時は十五キロも体重が減つていた。それから大陸横断鉄道で三泊四日掛かり、一月二十八日、トロントに到着した。気温マイナス十五度。駅から一步出た瞬間、体と歯がガタガタ震え出しどうにも止まらない。迎えに来てくれた中村先生と生徒たちの前で体裁を繕うのに四苦八苦した。

カナダでの最初の仕事は工場働きで、ベルトコンベアで流れてくるテレビの箱を組み立てる单调な流れ作業であつた。あまり気の進まない仕事ではあつたが自分にできることはこれぐらいしかないと割り切るようにした。

三ヵ月後、あまり業績が芳しくないとの理由でクビになつた。心からホッとした。

最初の一年で英語をマスターし、二年目である程度の経済力をつける。三年目で将来の方向性を見つけ出し、四年目で精神的、経済的独立を図る。五年目で渡加最大の目的「剣道以外で自分を一人前にできるもの」を果たし故郷に帰る、と当時の日記に書いている。今思うに考えが甘かつた。その後二十年プラスしても足りない。



▲ 1979年 SASAYAの前で

中村道場(東加武道館)は三十名ぐらいの部員がいた。しかし私が教え始めて二ヶ月もしないうちに急に生徒が減り出した。中村先生から「木村君、ここは日本ではない。カナダ人がわかる剣道を教えてくれ。」と言われ「カナダ人に合うような楽しく楽な剣道はできません。」と突っぱねていた。

渡加二年目でガーディナー(庭師)の商売を始めた。二十四歳の時である。カナダ人二人を雇い、早朝から夜まで身を粉にして働いた。特技なし、金なし、英語なし。ないないだらけではあつたが、剣

道で鍛えた体力と精神力だけはあつた。お客様に怒られっぱなし、教えられっぱなしの毎日であつた。

一九八〇年、カナダ国籍取得。空手部奥山先輩の道場を借りて拓武館を開いた。一年ぐらい入門者も無く、一人稽古の毎日であつた。生徒が少しずつ増え始めたのは二年目くらいからであつたと思う。日系人やその子供たちである。厳しくするとすぐやめる、甘やかすとつけあがる。自分でもどうしてよいのかわからず毎日考

えていた。ちょっと強く打つとすぐ泣いてしまうのに閉口した。あまり頻繁にそういうことがあつたので、皆に「泣いて痛みが取れるなら大声で泣きなさい。泣いて

輩(柔道O.B.・東京オリンピック銀メダル保持者)宅に着いた時は十五キロも体重が減つていた。それから大陸横断鉄道で三泊四日掛かり、一月二十八日、トロントに到着した。気温マイナス十五度。駅から一步出た瞬間、体と歯がガタガタ震え出しどうにも止まらない。迎えに来てくれた中村先生と生徒たちの前で体裁を繕うのに四苦八苦した。

カナダでの剣道指導



▲ No Tea Ceremony, Madame Butterfly Et Al at Kaede. Owner Shigeo Kimura Stresses the Basics. Good Food and Comfortable Surroundings. Naturally.

も痛みが取れないのであれば泣かない方がよいではないか?」といつたら皆きよとんとしていた。当時は十人新しく入門すると三ヵ月で三分の二はいなくなり、一年間続ける者は一人いるかいなかだつた。どこの道場でも同じで、なかなか良策が見つかなかった。もつと続けてもらうにはどうすれば良いか色々考へてきただが、なかなか良策が見つからないまま三十年が過ぎた。今は少しながらも剣道ブームである、「ラストサムライ」「キルビル」

などの映画の影響もあるようだ。毎年、二十九三十人は入門していくようになつた。しかし相変わらず続ける人は二、三人しかいない。それでもその中にはかなり真剣に取り組む人も出てきている。いかだつた。自分のお金を貯め、又日本で仕事をや大学へ通いながら剣道を続ける者も増えてきているので将来が楽しみである。

剣道は続けることが一番難しいように思われる。続ける為に時間と戦い、自分の弱さと戦い続けなければいけない。

一九九五年、拓武館創立十五周年記念大会を開催した折には、力ナダ、アメリカ各州から二百人以上もの参加者があり、また、ミシサガ市長、州会議員も参列くださり盛大なものとなつた。この大会は全試合一本勝負という世界初の試みで、試合内容も大変すばらしくものであつた。そしてわたしは次兄、民男とで日本剣道形を打つた。お陰様でこの大会は全参

ストラン(当時私が経営していた二号店)での打ち上げパーティーは大会以上に盛り上がつた。しかし、食べ放題、飲み放題だった為、冷蔵庫が空っぽになり、次の日、レストランオープニング時には大変焦つた。

現在二つの道場があり、トロント剣道クラブに六十名、ミシサガ剣道クラブ四十名。私以外に二人ずつの指導者(四段、五段)が週二回ずつ練習をしている。



▲ 1980年 拓武館道場開館合道練習(一番右側が中村先生)



▲ 1982年 拓武館にて(中央一番後、妻のアンマリー)



Shigeo Kimura, founder of the Takubukan Toronto Kendo Club and now the Mississauga Kendo Club, watched as Samuri warriors armed with bamboo swords went into action Friday at Ennola College in a display of the Japanese martial art, Kendo.

▲ ミシサガ剣道クラブ開館の記事

Bamboo swords

By SANDY MCLEAN
Special

The sword-swinging Samuri warriors were in action Friday night at Ennola College in a display of the Japanese martial art, Kendo.

Actually, the warriors were average, everyday people and the swords, truth be told, were actually bamboo sticks.

But a little imagination goes a long way. Kendo is an ancient Samuri martial art that's survived the modern age. A form of fencing, it's the oldest of the martial arts. Kendo means "way of the sword."

Friday's display was the first practice session of what Shigeo Kimura, who founded the Takubukan Toronto Kendo Club in 1980, hopes will be the start of a Mississauga Kendo club. Kimura is also in the process of opening Ginko, a Japanese restaurant, at Mississauga's International Plaza hotel in Mississauga.

In Japan, most children begin learning Kendo at a

young age and continue to practice into their senior years.

"People age 5-9 take it," Kimura said. "It's a very unique martial art. A lot of women are taking it up these days."

Kimura's sons have learned kendo since age 4.

"It's very good for children," Kimura said, adding it's meditative and builds self-confidence and self-discipline.

The Japanese Cultural Centre of University of Toronto, Etobicoke, Hamilton, Burlington, Niagara Falls and Ottawa Kendo Clubs were invited to join the new Mississauga club's opening practice.

Although popular in Japan, it's not quite so in Canada.

Kimura, a seventh dan black belt, has helped develop Team Canada's Kendo competitors. Canadians have twice placed second and once third at the world Kendo championships, against representatives from 30 countries, including Japan.

Call the Mississauga Kendo Club at 615-0006.

ヨーロッパ 四十五日間 武者修行



▲ 1975年 ヨーロッパ武者修行(最後の地フィンランドの友人宅で)

ガーディナーとして働いた一年で貯めた全財産五百ドルを持ってヨーロッパへ武者修業に出た。一九七五年一月のことである。イギリスのロンドンから入り、フランス、スペイン、ポルトガル、ドイツ、デンマーク、スウェーデン、フィンランド、四十五日間で八カ国、十六都市を回り、各都市で稽古した。イギリスでは菊池幸一先生、藤井興満先生、ホブソンさんに、フランスでは好村兼一先生、国松孝次さん(東大卒、剣道部)、スウェーデンでは九万田先生(警視庁)

▲ 1975年 ヨーロッパ武者修行
(スペイン、バルセロナの病院で、手術後の病室の中)

に稽古を頂いたり食事をご馳走になつたりと色々お世話になった。途中スペインのバルセロナで急性盲腸炎になり入院し手術を受けた。ホテルで我慢していたが我慢しきれなくなり、夜中の三時ごろタクシーで病院に行つた。病室に運ばれ医者が入れ替わり立ち代り入つてきて腹を押す。その痛さは虫歎をいじられるよりもひどいもので、痛くて痛くてどうしようもなかつた。しかし、ここまで来て泣きべそをかいだら侍の恥であると思い、できるだけ涼しい顔を装い盲腸を切つてくれと頼もうとしたが、英語で盲腸のことをなんと言つていいかわからず、スペイン語でしゃべる医者に「モ



▲ 1975年 ヨーロッパ武者修行(ドイツ)

小便をしようと起き上がつた時、腹がチクリと痛んだ。そしてやつと自分が盲腸の手術をして病院にいることを思い出した。二日間眠りっぱなしだったそうだ。

八日間個室に入つていたのが四日間あたりから支払いが心配になつてきた。手術代を含める相当な金額になりそうである。自分では到底払いきれないと思い、夜逃げを計画した。守衛の回つて来る時間帯を調べ、一番簡単に裏口へ出る方法を探した。七日目的一大逃げを計画した。守衛の回つて、なかなか離してくれなかつた。しかも病院の前は大通りで沢山の人人がいて大変恥ずかしかつた。

その後、稽古をしながら何とかカナダに戻つたものの、手術した所にばい菌が入り再手術寸前のところまでなつていた。

一九八二年ブラジルでの第五回世界剣道大会にカナダ選手として初参加。一回戦で台湾と対戦。私が先鋒で一本勝ちする予定であつた。一本一本勝負の後、二本目を出小手で決め、審判三人の旗が上がつたのを確認した後、ゆつ

「チヨ、カット」を何度も切腹の真似をした。その後は全然記憶に無い。目が覚めた時、何故自分が横になつているのかわからなかつた。小便をしようと起き上がつた時、腹がチクリと痛んだ。そしてやつと自分が盲腸の手術をして病院にいることを思い出した。二日間眠りっぱなしだったそうだ。

八日間個室に入つていたのが四日間あたりから支払いが心配になつてきた。手術代を含める相当な金額になりそうである。自分では到底払いきれないと思い、夜逃げを計画した。守衛の回つて来る時間帯を調べ、一番簡単に裏口へ出る方法を探した。七日目的一大逃げを計画した。守衛の回つて、なかなか離してくれなかつた。しかも病院の前は大通りで沢山の人人がいて大変恥ずかしかつた。

その後、稽古をしながら何とかカナダに戻つたものの、手術した所にばい菌が入り再手術寸前のところまでなつていた。

その後、稽古をしながら何とかカナダに戻つたものの、手術した所にばい菌が入り再手術寸前のところまでなつていた。

世界剣道大会



▲ 1994年 第9回世界剣道大会フランス大会(監督木村重男、3位入賞)



▲ 1996年 銀杏レストラン、再開店祝の挨拶

▲ 1996年 銀杏レストラン、再開店祝い
(エトピコーク市長夫妻、妻のアンマリー、三男政宗)

くり試合場を一回りして開始線上に戻ってきた。誰もが学生時代にやつていたことであった。主審の村山先生(福岡)の合議の合図が聞こえた。「えつ、何故に?」その後取り消しの宣告があつて唾然とした。公正を害する行為だつたのである。その内時間となり引き分けに終わってしまった。次鋒

が勝ち、中堅が一本負け、副将も一本負け、大将が一本勝ちをしたものの本数で負けてしまった。その後、大変な問題に発展した。この年から世界大会に取り消しが採用されたのであるが、各国に何の連絡も無く、審判もほとんど統一されておらず、大きな汚点を残す大会となつた。

一九八五年フランスでの第六回大会では、韓国で第七回大会とも団体三位に入賞し、一九九一年カナダで初めて第八回大会と一九九四年フランスでの第九回大会では、カナダチームの監督として両大会とも団体三位に入賞することができた。特にフランスでの第九回大会は、警視庁の千葉仁先生を特別強化コーチとして迎えたこともあり大変思い出多き大会となつた。

一九八八年韓国での第七回大会とも団体三位に入賞し、一九九一年カナダで初めて第八回大会と一九九四年フランスでの第九回大会では、カナダチームの監督として両大会とも団体三位に入賞することができた。特にフランスでの第九回大会は、警視庁の千葉仁先生を特別強化コーチとして迎えたこともあり大変思い出多き大会となつた。

私の家族は五人である。カナダ人の妻アンマリー、剣道二段。六年前より病氣で右足が不自由な為剣道は止めている。長男重成(英名・マシュー、二十五歳)剣道二段。大学に入学後、剣道は止めている。大学卒業後、調理師を希望し現在テレビ料理番組のアシスタントをしている。次男拓也(英名・アンドリュー、二十歳)剣道三段。カレッジの学生。カナダチームの選手になる為特訓中。三男政宗(英名・エレン、十六歳)剣道一級。剣道より読書が好きで、練習は週一回の割で続いている。

一家族

現在トロント空港近くのビルの中に日本料理のレストラン「銀杏」を開店して二十三年になり、観光客や地元の方々に日本料理はヘルシーで旨いと好評を得ている。

これまで何度も大変な時期があり、持ち家を売却してアパート住まいをしたこともあったが、何時も家族に助けられ、困難を乗り越えることができた。これも剣道を通じて結びついた強い家族の絆のお陰だと思っている。

日本を離れてみると、日本のすばらしさを実感する。日本の自然、文化、勤勉さ、誠実さ、敬老精神、細やかな心遣い等々。しかし最近のマスコミを見ると、これらの日本の良さが失われつつあるのではないかと心配になる。私は日本人として日本をこよなく愛し、剣道を通じて日本の伝統文化をカナダの地に根付かせたいと思っている。

「カナダでの剣道」

木村 重男

おわりに



▲ 料理長として2号店の楓レストラン
(ミシサガ新聞での紹介写真)



▲ MARTIAL ARTS
(カナダのスポーツ雑誌での紹介写真)



▲ ポーランド全土から集まった、剣道家達・・・皆熱心に稽古しています



▲ ジュニア合宿での稽古のようす（白い稽古着が高橋さん）



▲ ポーランドの女の子も赤い胴がお気に入り



▲ 日本のお友だちと剣道してみたいな

剣道を通じ、日本の伝統文化に触れようとしているポーランドの剣士を応援しようと、仙台市泉区剣道連盟所属、高森剣道クラブ（斎藤美智江会長）は当クラブの二十五周年の事業の一つとして、剣道防具・稽古着・竹刀等一式を寄贈した。そのきっかけは、クラブで剣道の指導者であつた、高橋静さんが剣道指導の青年海外協力隊員としてポーランドに渡ったのがきっかけであった。

ポーランドの剣道 練習の実績

高橋静さんから、「竹刀は大変貴重品で、防具も数人で使いまわしている。若い剣道家を何とか育てたい」との熱情報告があった。

この報告を受けた高森剣道クラブは何か応えたいとの意向で、全員で思案をめぐらした結果、今回の事業を実施し実現させた。また、子供たちの意向で剣道防具の他に、子供たちの練習風景や年間行事の一部である餅つき風景・体育館での遊び風景写真を、説明入りで同時に送付した。

日本からのプレゼントに大喜びで感激の一言であつたとのこと。また高橋さんは荷物を開けた時、涙が出てとまらなかつた。これを機会に、ポーランドの剣士は、ますます剣道修行に精を出すことでしょう。さらに子供たちは餅つき風景や日本の剣道の様子を写真で捉え非常に興味をもつたとのコメントがされてきた。

ポーランド剣士の反響

高森剣道クラブ師範 剣道教士 七段

千葉克彦

ポーランド剣士との交流

高橋 静 殿 からの メッセージに応えて

平成十五年五月七日

一、防具を送付する事になつた経緯について

貴方のお便りを見て日本文化の剣道を修行している子供たちに感動して、何かお役に立てることができないものかと思い、高森剣道クラブの創立二十五周年記念事業の一つとして、貴方が青年海外協力隊として貢献しているこの機会に、先輩諸君の防具を寄贈することにしました。

二、ポーランド剣道との相違点

ポーランドの剣道はわかりませんので相違についての感想はできませんが、指導するポイントとして日本文化が蓄積されていることを教えて貰いたい。当てるのみが一本ではなく、気剣体一致の意味が解るよう努めたいと思います。

三、防具の使用方法

調達困難な状況と推察しております。剣道がしたい子供たちに少しでも役に立つとあればと考えます。そちらで有効に使用していただければ本望です。

四、防具回収・梱包・その他のエピソード

五、ポーランド剣士に対するメッセージ

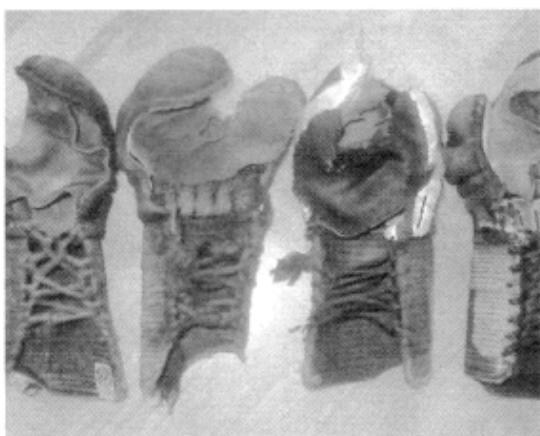
回収は当クラブの父兄にご協力を願い、特に使用可能な防具また当クラブの保管防具を回収しました。また澤田先生からは特大サイズの防具を寄贈してもらいました。梱包は竹刀等が収まる箱がなく、手づくりとなりました。発送は高野先生の会社までのご協力を得、安くまた現地着までの管理を御願いいたしました。防具は新しいのとを考えましたが、費用の面で難しかったので、古い防具となりました。ただ、防具には名前が書いてあります。県内では活躍した選手が殆どです。また大山と書いてあるのがあります。貴方もご存知とは思いますが、現在女子では県内一二の選手になつております。いずれにしろ防具が古ないので恐縮に思っています。貴方の判断で使用の可否をみて下さい。なお、竹刀の部品を入れておきましたので、役に立つと思います。

日本伝統文化である剣道を行っている剣士の皆さんに、同じ剣道をする一人として心より敬意を表します。剣道を他国の人人が理解することは大変難しいのではないかと思つております。日本のもつてゐる文化が剣道に凝縮されると考えてもおかしくありません。ぜひ剣道を通じ日本の国のですばらしいものを見つけてください。強くなればなるほど、その意味が解ると思います。日本の一女性のお蔭で皆さんとこのように交流ができることが大変嬉しいと思います。機会があれば剣を交えたいと思っております。皆さん今後のご健闘とご活躍を心よりご期待申し上げメッセージに変えさせていただきます。



千葉克彦

高森剣道クラブ師範 剣道教士七段



▲ 手の内がなくても大切な小手なのです

▲ 日本の皆さん、いつの日かポーランド・プロツワフ剣道クラブに来て下さい!
そして一緒に剣道をできることを楽しみにしています…

ポーランドからの礼状

高森剣道クラブでは、喜んでい
るポーランドの剣士の皆さんを見



▲ ヴロフワツ剣道クラブ
会長からのお礼状

て、今回の事業は、大変よかったです。このように子供たちに剣道を通じて広く世界の人々と交流ができることがあります。教えて貰えたのは、素晴らしいこと受け止めています。

今回の事業実現に向けて困難だったことは、費用の面は除外しません。寄贈先国の実情がよく解らないまま送ったが、送り先国の税関手続きが大変面倒で、手元に届くまで予想以上の日数がかかり、心配されたことであつた。

高森剣道クラブの皆様

平成十六年五月十五日

この度は、ポーランド共和国に対し、中古防具の寄贈を賜り、誠に有り難うございました。

皆様から御寄付頂いた防具は、

ボーランドの首都ワルシャワに届き、一連の税関審査を終え、無事私の任地であるプロツワフ剣道クラブに届きました。今後、皆様の防具はプロツワフ剣道クラブの管理の下、ポーランド全国の剣道クラブの子供たちや一般の剣道家の皆さんに貸し出し、広く活用される予定です。皆様からお送り頂いた防具や剣道着の荷物を開封した際に見た、ポーランド剣士の喜びは文字では書き表せな

い程であります。また、クラブのみんなが書いてくれた写真付きの壁新聞に剣道青年たちも興味津々でした。特に、スイカ割りや餅つきの写真が大人気でした。

ボーランドは日本と比べて、備品不足や指導者不足など苦しい稽古環境にありますが、皆、明るく懸命に取り組んでおります。この度、E.Uへの加入を果たしましたが、他の西欧諸国との経済基準に追いつくまでは、まだまだ厳しい状況にあります。剣道は、空手や柔道と異なり様々な備品購入が必要なため、ポーランドの剣道家にとって個人の防具購入は夢と

在、ポーランド全国には四〇〇名の剣道爱好者がありますが、個人の防具を所有している人は数える程であります。多くは(財)全日本剣道連盟からの寄贈防具や今回、皆様からご協力頂いたような日本人関係者からの寄付によつてまかなわれております。しかしながら剣道人口の増加に防具確保が追いつかず、大勢の剣士が数年にわたり防具無しで稽古を続けております。私も青年海外協力隊としてポーランドに派遣されるまでは、日本から遠く離れた海外で、こんなにも熱心に日本の伝統文化に取り組んでいる人々の存在を気付かず過ぎて



青年海外協力隊 剣道指導員

高橋 静



▲ 異級試合、審査の様子



▲ ポーランドちびっ子剣士たちも元気いっぱいです

社団法人 日本善行会

平成十六年度 善行銀賞

受賞記念寄稿

私の剣道は少年と共に

剣道教士 七段 安倍昭平

一職責と剣道

二剣道は少年と共に

氣仙沼 早起き少年剣道について



▲お孫さんとの記念撮影



▲伝統文化(剣道)こども教室開講式

私が剣道を始めたのは、小学三年、九才の時である。昭和二十二年に宮城県警察官となつたが、当時は米軍占領下で警察は柔道しか行われていなかつた。昭和二十七年、平和条約成立後、警察も剣道を復活させた。

剣道二段だつた私もやつと好きな剣道を再開することができてうれしかつたことを覚えている。

その後、私は多くの方々に支えられながら少年達と週六回の朝稽古を三十年続け、現在に至つてゐる。

私は刑事担当、犯人捜査に執念を燃やし、幾多の事件に関与した。この手法には剣道の技法と相似したものが多く、たいへん役に立つた。古川、角田、仙台北、各署の捜査主任の仕事は多忙であつたが、暇を見つけては〈素振り〉〈剣道形〉の稽古をしていた。

角田で私の最初の少年剣道の指導が始まった。

昭和二十八年、角田署の捜査主任となり、そのときの署長が剣道教士六段で、少年健全育成を目的に少年らに竹刀を与え、私にその指導を命じたのである。小中学生數十名が集まり、署の道場で稽古をした。戦後、少年剣道を始めたのは、角田署は早い方だつたと思う。

教訓：

一、上司(剣道教士六段)の心温かい指導を受け、その教えの下に誠実に行つたこと。

二、少年の父兄(母)の後援が盛んであったこと。

三、地元、中学高校の先生方や剣道有志の理解・協力があつたこと。

教訓：

一、氣仙沼市剣道連盟会長、教士・鍊士のご協力ご指導ご理解を得たこと。

剣道を始めてから早五十数年が過ぎていつた。そしてその多くを少年らと共に過ごしてきただのである。

昭和四十三年四月、氣仙沼警察刑事課長として単身赴任した。まぐろ、かつお、さんまの水上げで有名な漁港である。日常の犯罪も多く、職責を全うすることが求められた。二十四時間中、刑事担当の業務の閑は朝六時から七時までである。同市のスポーツ振興熱は、極めて高く、野球では甲子園出場も果たしている。剣道は他の競技と比べ、必ずしも盛んとは言えなかつた。普段やつてゐるのは中学高校の部活くらいであつたと記憶している。そこで私は、警察署に協力している防犯、交通安全協会の幹部に対し、早起き少年剣道を通じ、少年の健全育成について協力を要請した。警察署近くの少年たち十数名が集まり共に汗を流した。



▲ 将監西剣心会のみなさんと

二、小学校教諭の温情溢れるご理解があつたこと、女性教諭から「朝ごはんを食べずに起きてすぐ登校の生徒は、ほとんど一、二時間目は居眠りしている。早起き剣道の生徒はご飯をいっぱい食べてくるので目の光キラキラである。」という全面的な賛同のことばをいただいた。

三、市長・議員・防犯協会・交通安全協会の全面的協力があつたこと。

四、地元報道機関が催し物があるたびに大々的に少年剣道を讀え、報道してくれたこと。

昭和四十五年から仙台北署刑事課長を命ぜられた。さすがに市内は県都、賑やかな反面、凶悪犯罪が続発した。しかし、いくら多忙でも朝六時から七時までの閑はあつたのである。警察署に朝夕官弁を納めている向かいの食堂の主人に対し、早起き少年剣道の協力を要請した。同氏は地元町内会の理事をしており、町内会長ら理事全員が、全面的に協力してくれる約束してくれたのである。最初は数名の小学生の稽古だけだったのが、果ては百余名にも膨れ上がる盛況ぶりであった。

毎朝鉢巻をして仙台北警察署道場にくる剣道着姿の少年、そして同じく鉢巻して指導にくる町内会理事のはつらつとした姿は、北仙台の風物詩・名物として話題になつた。昭和四十九年泉区将監西起き剣道(木)(土)の週二回の稽古が始まつたのである。

北龍会(月)(火)(水)(金)
私の、週六回の朝稽古も、三十年に及ばんとしている。

二、小学校教諭の温情溢れるご理解があつたこと、女性教諭から「朝ごはんを食べずに起きてすぐ登校の生徒は、ほとんど一、二時間目は居眠りしている。早起き剣道の生徒はご飯をいっぱい食べてくるので目の光キラキラである。」という全面的な賛同のことばをいただいた。

仙台北少年剣道クラブ「北龍会」及び「将監西剣心会」について

教訓：

一、地元町内会長以下理事の協力(指導)理解があつたこと。

二、親の会(後援会)を結成し、全面的な協力があり、四季折々のレクリエーション活動を実施し、親子共々の意思疎通を図つたこと。

三、仙台市剣道連盟の積極的なご指導ご理解があつたこと。

さらに、(社)日本善行会から昭和六十年「善行銅章」、本年は「善行銀章」をいただいた。

私がより他に、地道な剣道指導者がいるにもかかわらず表彰されたことは汗顔の至りである。

ただ、今後も元気である限りは、少年らと剣道のかかわりをもちつつ生きていきたい所存である。



▲ 練習後の講話



▲ 少年剣道クラブでの指導

剣道教士 七段 安倍 昭平

仙台市剣道連盟副会長
仙台市泉区剣道連盟理事
仙台北少年剣道クラブ北龍会師範
将監西剣心会師範
仙台市立南光台中学校外部指導者

因みに私ごとき、下手の横好きな者に対し、角田市防犯協会、気仙沼市長・議長、仙台市長など各界を始め、県、市剣道連盟会長から特段の評価をいただいた。

もう一つの剣道

「剣道を始めて」

石巻市 山本 達也

たまたま第一回宮城県男子成年初段の部に優勝いたしましたが、我家は妻と三人の子供達と私の五人家族で皆、剣道をしています。中でも一番遅く始めたのが私は長男が小六の時に、全日本剣道録成大会に出場し、日本武道館で戦うのを観て下の二人にもこの経験をさせてやりたい、子供達にアドバイスをしてあげたいと思い一緒に稽古するようになりました。三十五歳を過ぎてから始めたので道場の先生や妻から色々教わるのですが仲々思うように体が動かず、考えていた程、簡単ではありませんでした。それでも家族共通の話題も増え自分の健康や精神の鍛錬にもなり、剣道を始めて良かったと思っています。

今では、先生の教えに従い基本や動作、作法を正しく身に付け、思いきり打ち切り、きれいに負けろをモットーに生涯楽しく剣道を続けて行きたいと思っています。最後に今回私たちにこのような機会を与えて下さった先生方に感謝し、これからも稽古に精進していきたいと思います。

若林区 吉武 洋

太白区 細矢 智

私が剣道を始めたきっかけは、当時小学二年生の息子に「お父さんと一緒に剣道がしたい。」の一言ほど前になります。動機は、子供達の影響です。我が家の中では、今まで剣道に携わったことの無い私は「この年から剣道を」と思つたが、同じ剣友会に所属する会員の方も子供と一緒に剣道を始めたと聞き、自分もできるではと思つた竹刀を握つた。

私の職業は「刑務官」です。正課のひとつとして、剣道か柔道を選択しなければなりません。少々剣道経験があつたので剣道を選択しました。しかし、初めてのうちは稽古に参加することがいやで、仕事だからしかたないという気持ちで惰性的にやつっていました。ある大会に出場した時でした。対戦相手は見る限り初心者とわざかる人。負けるはずがないと思い試合へ臨みました。結果は完敗でした。試合後、話を伺うと、子供が剣道を始めたのをきっかけに、剣道の魅力にとりつかれ始められ

振りをしてました。初めのうちは小学生の中に大人が一人だけで照れ臭い気持ちがありました。上手になりたい、強くなりたい思ひが徐々に大きくなつてゆき、夢中で稽古しました。先生方にもよく指導していただき、今年の夏には二段に合格できました。時々試合に勝てるようになります。稽古に励んでいます。私なんかまだまだですが、今度は三段を目指に努力したいと思っています。この歳になつて剣道を始めて、毎日がとても充実しています。これからも、気力と体力がある限り稽古を続けていきたいと思っています。

若林区 平井 孝広

初めて竹刀を握つてから、毎週二回息子と一緒に稽古をしている。最初は身体が思うように動かなかつたが、それでも一年が経過してみると、少しは形になってきたのではと満足している。剣道は生涯スポーツと言われるが、歳を重ね息子と剣道の話題で語り合えるように、これからも一緒に楽しく稽古に励もうと思う。

私が剣道を始めたきっかけは、唐桑町で毎年行われている町内剣道大会でした。実は、私も小学四年生から中学三年生までの六年間唐桑剣道会で剣道を習い初段まで修得していました。

町内大会では特別イベント親子対決があり父兄代表に選ばれ試合に出場することになりました。竹刀をぎるのは、二十年ぶり以上で、

唐桑町 畑山 貴浩

た人でした。その時「多くの先生方といつでも稽古できる環境にいるあなたが羨ましい。」というひとことに、試合で負けた以上の衝撃を受け、自分自身を見つめ直すきっかけになりました。

それ以来、真剣に稽古に打ち込みました。すると、試合でも良い成績を残すようになるとともに、心身の成長を感じるようになり、充実した日々を送っています。

できるかどうか本心不安でした。少しでも練習をしようと先生方から防具を借り週に二回ぐらい子供たちにまじって練習をしたら、思つた以上に動けたのでまた真剣に剣道を始めようと考えました。何より子供たちと一緒にできるというのが一番の剣道を始める動機でした。

剣道に求めるもの、本来の子供らしい心と体を剣道を通して育成できればいいと思う。

角田町 大石 勇一

私は小学校時代昂心館で斎藤昂先生に剣道を教えて頂きました。私が、習っていた頃は人数も多く皆で一生懸命厳しい稽古に励み礼儀作法や忍耐力などを身に付けさせてもらいました。

私の子供一人も小学生になり、習い事をさせるなら一緒にできることなく成長してくれたのは剣道成会のお陰と感謝しております。

一生懸命に打ち込む子供の姿に逆に励まされ負けずに今も頑張っています。

これからもお互い剣道を通じて心身共に鍛え厳しさの中にも楽しさもある剣道を続けて行きたいと思います。

名取市 菅野 貞二

私は小学校時代斎藤昂先生に剣道を教えて頂きました。私が、習っていた頃は人数も多く皆で一生懸命厳しい稽古に励み礼儀作法や忍耐力などを身に付けさせてもらいました。

私の子供一人も小学生になり、習い事をさせるなら一緒にできることなく成長してくれたのは剣道成会のお陰と感謝しております。

子供たちが巣立った後、少子化時代の為か、入会してくる子供が少くなりました。

関上剣道育成会は、現在丹野勇己先生を中心に諸先生方が三十余年もの長い間「青少年の健全育成・非行防止・心身の鍛錬」を目的として創設され今日まで続けて来られました。ぜひ今後もこの会を末永く継続させて頂きたいと願う限りです。

第一回宮城県男子成年 初段・二段の部剣道大会

初段の部	優勝	山本達也
第二位	吉武 洋	
第三位	細矢 智	
第三位	平井孝広	
第三位	畠山貴浩	
第三位	大石勇一	
第三位	菅野貞二	

伝統文化としての剣道

今回は、剣道の普及発展のために海外でそして地域で活躍しておられる方々を紹介させていただきました。

カナダ在住の木村先生には、何度も電話（時差約十一時間）をさせていただきました。木村先生はレストラン経営や剣道指導とたいへん多忙にもかかわらず、いつも明るい声で電話に出られ、先生とお話をしているだけで元気をいただくことができました。

高森剣道クラブによるボーランド剣士との交流では、剣道を日本文化が蓄積されたものと考え、その日本文化をどのように伝えるかについて留意されておられました。今回は全部の資料を掲載できませんでしたが、多くの貴重な資料を見せていただきました。

安倍先生は、昭和二十八年より朝稽古（六時から七時）を長年に渡って続けられております。剣道は続けることが大切なことは誰もが分かっていることなのですが、実践なされ得たことに敬服いたします。

また、子どもと一緒に剣道を始められている方々からのご感想をいただくことができました。剣道を生き甲斐とし、剣道を通して自分を高めようとする生き方に多くのことを学ばせていただきました。

編集を通して「日本文化のすばらしさとは何か、また日本人として何を大切にしなければならないか」について考えさせられました。これからも、「伝統文化としての剣道」の発展に貢献している方々を紹介していきたいと思います。

「轍」七号に、ご寄稿、ご協力いただいた多くの方々に心から感謝申しあげます。